

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600301		
法人名	有限会社共生會		
事業所名	ぐるーぷほーむ樹林		
所在地	石狩市緑苑台東3条3丁目255		
自己評価作成日	2014年10月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、 体重の3%の水分摂取(食事以外) を目標に脱水予防・便秘の改善等体調管理に活かしている。</p> <p>2、 毎日昼食、夕食前に約20分程体操の実施、夏期については毎日散歩等を実施する事で体力の低下を防ぎ健康管理に役立てている。</p> <p>3、 年間を通してブリーチの0, 1%液による共用場所の消毒、手洗い、うがいを実施し、又11月から5月の間は加湿器4台を24時間稼働させほーむ内の湿度を50%程度に保つことで、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染防止を図っている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=trou&JigyosyoCd=0177600301-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【居心地良い居住空間に配慮した建物のホーム】 グループホームの建物を研究して開設した当ホームは、明るく広い共有スペースや吹き抜けによる開放感と居室のクローゼット設置等で居心地良い住処です。</p> <p>【丁寧なケアプランと健康管理の徹底】 分かりやすく丁寧に作成したケアプランを基に、食事内容や水分摂取量、ホーム内全体の温湿度管理、食事前の体操や散歩など徹底した健康管理に努めています。</p> <p>【明るく雰囲気の良いホーム】 利用者にとって穏やかで楽しい暮らしを支援する理念を職員は理解して優しさとおしよりのあるケアサービスに努めており、家庭的で明るく雰囲気の良いホームです。</p> <p>【地域との交流推進】 ホーム長(代表)の町内会役員経験や民生委員就任、敬老会や防災訓練など町内会行事への参加協力、保育園児の訪問等と地域との日常的交流があります。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティング、全体ミーティング等を通して理念を共有、日々の介護で実践している。	地域との交流や利用者の「その人らしい暮らし」を支える理念を職員は共有し、日常業務やミーティングを通して理念を確認しながら利用者へのケアに実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で実施する避難訓練、夏祭り、敬老会、クリーン作戦の参加、散歩等での挨拶等で日常的に地域と交流している。	ホーム長（法人代表）は町内会役員経験や民生委員を務め、利用者や職員は町内会の敬老会や夏祭り、防災訓練などへ参加協力しています。さらに、保育園児の訪問など地域と日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の民生委員との協力、町内会の役員会等を通して認知症の理解、支援のあり方を地域の皆さんに発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常のサービスのあり方、ほ一むの取り組みを報告、会議での指導を日常のサービスに活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は、地域住民、市職員、家族と利用者が参加して定期的開催して意見交換を行い、運営に反映させています。会議参加者が多数となるよう会議終了後に諸行事も開催するなど会議の取り組みにも工夫しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と随時連絡をとり疑問点の解消に努め又必要な文書等については速やかに提出している。	運営推進会議に市職員が参加していますが、ホーム長は、書類提出や相談で頻りに市担当者窓口を訪問しており、グループホーム関連会議へも参加して行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のミーティング等を通してほ一むのあるべき姿を全員で検討する等身体拘束は絶対しない、拘束の具体例について理解し、それを活かしてケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束をしないケアの必要性とその内容をミーティングやホーム長によるアドバイス、日常業務などを通して十分理解して実践しています。玄関施錠は夜間帯のみで、出入り口も内部から見通しが良い構造になっています。	身体拘束をしないケアは徹底していますが、関連マニュアル類はまだ十分でないので新人職員を含めて全職員が身体拘束をしないケアを再確認し、理解を深めるため関連マニュアルの整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者研修、地域ケア会議、ぐるーぷほ一む協議会への参加をとおして学ぶ機会を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会、グループホーム協議会の場を利用して学ぶ機会を持ち、必要な方には制度について説明し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に予め契約に必要な文書一式を交付し熟読していただき、当日はほぼ半日をかけて管理者が説明を行い十分理解、納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び日々の来訪時に日常のケア、行事の実施等について利用者、家族の意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	殆どの利用者家族は月1度以上の訪問があり、その都度、職員との話し合い中で意見や要望等も提案しています。家族からの要望等は申し送り簿に記載して検討し、クリスマス会の会場を変更するなど家族からの要望等を運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほーむの運営はそれぞれの職員の日常の工夫、努力なくしては成り立たないことを肝に銘じ、毎日の業務、日常のミーティング等を通して意見を聞き運営に活かしている。	ホーム長と職員及び職員間の良好な人間関係から日常業務やミーティングで率直に話し合いをしています。職員からの意見や提案は内容に応じて検討し、ホーム運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	計画的な研修の機会を設ける等のその立場に応じてやりがいと向上心を持って取組めるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通して職員の力量を把握しつつ、本人にあった研修の機会を設ける等しながらOJTを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ぐるーぷほーむ協議会の参加、相互訪問等の交流を通してサービスの質を向上できるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、体験入居等の機会を設け十分にアセスメントを行ない不安、混乱の解消に努め安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほむでの生活はご本人、ご家族及び職員が一致協力して築く必要性を説明、理解をいただきながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居、アセスメントの中で何が必要かご本人、ご家族、職員の3者で相談・確認、必要な支援を見極め病院との利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることについては可能な限りご本人に行き届くことを前提に説明・見守りを適切に行ないながら暮らしを支えるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって最も信頼するご家族の対応が一番大切であることを説明し出来る限り関わっていただきながらともに支える関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、旧知の方との関係の継続がホームの生活を充実した物とするための重要な要素であることを大切に支援している。	現在の利用者は高齢化のため馴染みの場所への外出希望は殆ど無い状況ですが、希望があれば出来るだけ対応し、墓参りや年末の外泊には家族と連絡を取りながら支援しています。ホーム来訪者には歓迎して居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士円滑な関りが持てるよう、職員が調整役となりできるだけ相互にかかわり、支えあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の近況の把握を含めこれまでの関係性を大切に、相談等に乗れるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護で継続的にアセスメントを行い、思いや意向の把握に努めている又本人本位をモットーに対応している。	日常業務やケアプランの基本情報等から思いや意向を把握していますが、把握困難な時はミーティング等で職員間の話し合いを行い、利用者中心のケアに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じて、生活歴を出来る限り細部にわたり把握することに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントとともに日常生活の様子を観察・現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には6ヶ月に1回、変化のあった時にはその都度モニタリングを行い介護計画を変更・作成している。	ケアプランは丁寧で分かりやすく作成されています。全職員がアセスメント表に記入して、ミーティングでプラン内容を協議して6ヵ月毎に見直しています。また、変化のあった時は、その都度家族や主治医とも相談して、利用者の状態に即したプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの変更・作成時には全員でアセスメント、モニタリングを行い情報を共有し実践・介護計画の見直し・作成を行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院との連携、ボランティア・訪問美(理)容の活用等多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、町内会、警察、消防、地域福祉協議会等と協力しながら安全・豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時及び必要な時には、本人・家族等と相談しながらなじみのかかりつけ医の診療が受けられるよう支援している。	24時間対応の協力医療機関による訪問診療が隔週毎にあり、看護師の職員による健康チェックも週に2日実施しています。外部医療機関への通院には職員と家族又は職員のみで付き添い支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、体調等の小さな気付きは看護職員と相談・意見交換しながら適切な看護、受診につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての情報交換あるいは管理者等が病院との情報交換等を頻繁に実施する事により関係作りを行なっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の対応方針等について説明、話し合いを行ない、事後本人の状態を確認しながら主治医を交えて必要に応じ話し合いを行い対応している。	入居時に重度化ケアの対応方針を説明し、同意書を頂いています。過去に看取り事例はありませんが、ホームは看取りまでの支援を可能としており、講師を招聘して勉強会も実施し、ホームの方針を職員は共有しています。	利用者の看取り支援について具体的支援方法を文書化し同意書を頂く事で家族も安心し、職員にもホーム方針の明確化が図られますので、この取り組みを望みます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習に参加或いはほ一む内で救急時の初期対応の訓練を実施する事により実践力を身につけるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害時に必要な物品を準備、又消防計画を作成、年2回の消防署立会いの避難訓練を実施している。	消防署の指導を受けて年2回避難訓練を実施し、救命救急の研修も受けています。災害時の住民協力マニュアルも整備し、住民の参加を呼び掛けています。災害時に備えて備蓄品や発電機、カセットコンロなども準備しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、生活歴等を把握し、誇り、プライバシーを損ねないように声かけに注意している。	職員は、ミーティングでの話し合いや日常業務を通して利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアを理解し、入浴やトイレ誘導の言葉かけなどに実践しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほ一むの生活の基本は自主、自立である事を基本として本人の意思を尊重し、希望の表出、自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、できるだけ思いのままに生活していただけるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴、趣味趣向・希望を大切にその人らしい身だしなみが出るよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けを一緒に行い、食事は入居者の皆さんと会話を楽しみながら摂るようにしている。	食材会社の献立以外に昼食は利用者の希望を聞き、利用者と職員が食材購入に出かけています。和やかな雰囲気の中で利用者と職員が共に食事を取っています。また、クリスマス時のケータリング利用など季節行事食等を家族と共し、楽しく過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を基本とし摂取量、栄養バランスは栄養士等と相談しながら支援、水分摂取量は体重の3%を目標として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施、個々の状態に合わせて介助、一部介助を行い清潔を保持するように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導を基本とし、状態に応じ随時誘導を行い失敗を極力減らしトイレでの排泄、自立に向けた支援を行なっている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、様子観察や時間間隔を見てさりげない声掛け誘導でトイレ排泄の支援に取り組んでいます。下着類も日中は出来るだけおむつの使用を最小限にとどめています。職員は新型パット装着の研修会も受けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の原則水分摂取、運動、食物繊維の摂取を毎日の生活の中に取り入れ予防している、又自然排便の困難な人は主治医と相談、下剤により調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるよう健康状態、希望により調整し、支援している。	月曜日と木曜日の午後に全員が入浴を実施していますが、利用者の状況や行事等で曜日変更もあります。現在、入浴を嫌がる利用者は居ませんが、入浴を嫌がる時は雰囲気を変えて誘導するか清拭などで衛生保持に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の生活リズム、体調に合わせて休憩、安眠が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表により理解を深め、服薬後の症状の変化についても確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片付け、洗濯物たたみ、散歩、パズル等一人ひとりの役割、楽しみごとの実施等張り合い、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	蕁狩、イオンショッピングセンターへの買物、日々の近隣の散歩等日常的に戸外へ出かけ、本人の希望によりご家族と生まれ故郷への帰省などの支援をしている	気候のよい時期にはホーム周辺の散歩や近所のホームガーデンを見学しており、敬老会やお祭りなど町内会行事へも出かけています。さらに、イチゴ狩り、紅葉や海岸などの景観見学、公園散策など体調に合わせて戸外に出る機会を持つよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理のお手伝いをしながらお金を持つこと、使うことの大切さを感じていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、年賀状、暑中見舞いを出すことの出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を一緒に作ったり、時季の花を飾る等し、夏場はエアコン、窓の開放により換気に気を配る等小さな工夫で居心地良く過ごせるようにしている。	居心地の良さと暮らしやすい居住空間を研究して建築したホームは、天井の吹き抜け構造や広い開口部による明るさと余裕のある広さの居間兼食堂があります。居間兼食堂には季節の装飾や手作り作品がバランスよく飾られて家庭的雰囲気があり、利用者はのんびりと日中を過ごしています。浴室やトイレの共有スペースも衛生管理が行き届き、温湿度にも十分配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、談話コーナー、シテングスペースを設け各人が落ち着ける場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない程度に使い慣れたものを配置していただき、状況に応じて逐次話し合い調整している。	各居室には大容量のクローゼットと壁面に手すりが設置されており、身体の不自由な一部利用者のダンス上部に手すりを設けるなどの工夫もされています。利用者は、仏壇や家具類、テレビなども自由に持ち込んで配置し、写真や絵なども壁面に飾りながらゆったりと楽しく、自由に過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、各所に手摺を設置する等できるだけ自立した生活が遅れるよう工夫している。		